

【 問 題 例 】

Ⅱ - 2

財政制約と投資余力が減少する中で、今後の社会資本整備のあり方について述べよ。

【 解 答 構 成 】

見出し	切り口	内 容
1. はじめに	少子高齢化の進展に伴う財政不足	投資余力や就労者の減少への対応に加えて国民のニーズに応えた社会資本整備
2. 少子高齢化問題	就労人口減少 高齢化	人口減少により就労者も減少 2050年には現状の8割まで低下
	社会資本整備と財政状況	国民の多様なニーズに対処するため効率化、透明性・客観性の向上が必要
3. 21世紀における社会資本整備のあり方	社会資本整備における計画的・効率的な運用	マスタープラン先導型（計画重視）、整備効果の検証、既存ストックの活用、透明性・客観性の向上
	民間活力の活用	PFIの実施、公共事業への民間参入環境の整備、目的別出資募集
	社会資本整備コストの縮減	ライフサイクルコストの縮減、モニタリング・点検の高度化、劣化予測技術の開発、アセットマネジメントの導入
4. おわりに	社会資本整備の3つの柱	経済、快適生活、環境への対応と住民参加による推進

【 コ メ ン ト 】

財政不足に対応するための計画的・効果的な社会資本整備と運用方法が適切に述べられている。しかし、本論を組み立てるに当たって、現状の問題点を「少子化問題」、本論として「21世紀における社会資本整備」とするなど、組み立て方に問題がある。

技術士第二次試験 記述問題 解答例

選択科目	必須科目	問題分類	環境保全
------	------	------	------

(2 / 3)

と人口の減少に伴う税収減が問題となっている。			
3.2.1 世紀における社会資本整備のあり方			
(1) 社会資本整備における公共投資財源の計画的・効率的な運用			
公共投資財源が制約される中で、社会資本のストックを質量ともに確保するためには、限られた財源の計画的・効率的な運用が必要である。			
① 社会資本整備に対するこれまでの事業先行型から地域ニーズに根ざしたマスタープラン先導型への転換による計画性を重視した事業の創出			
② 社会資本整備における整備効果の検証と整備プログラム策定による規定事業の見直しと事業化における整備効果・効率性の確保			
③ 社会資本整備における既存ストックの活用			
④ 求められる社会資本を求められる形で提供するた めに、顧客である国民との対話を深めた透明性・ 客観性の高い事業の実施			
(2) 社会資本整備における民間活力の利用			
公共財源の計画的・効率的な運用の一環として、資金・人材・技術・資材等の面で十分な供給能力を持つ民間活力を活用する。			
具体的な活用方法としては、			
① 収益性が確保できる民間公共事業（PFI）の実施			
② 公共事業への民間参入を促すための環境整備 (低金利融資制度や税制上の特別措置など)			

